



# 考える会 ポジショントーク

岩下武史（北海道大学情報基盤センター）

# イベントを行う場合における論点

- ▶ 何をやるにしても「育てる」意識が必要
  - ▶ 需要はあるが供給がないイベントの実施には明瞭な開催意義があるが、潜在的な需要や需要自体の掘り起しも想定した考え方が必要かもしれない
  - ▶ 何を実施したとしても、批判もあるし、意義もある。短期的な視点にとらわれず、意義や狙いが浸透するまで忍耐強く試みる必要がある
  - ▶ “会議”を育てることは“人”を育てることに繋がる
- ▶ 査読 あり or なし？
  - ▶ 自身のPC経験では、PCが何をする所か理解するのに役立った（いきなり、国際オフラインPCミーティングに参加はきつい）
- ▶ 合同研究会スタイルについて
  - ▶ SWoPPにおいて、実質的に「研究会連携」の意義が薄れている
    - ▶ 登録外研究会セッションへの参加に費用がかかる

# イベントを行う場合における論点

## ▶ 国際会議スタイルについて

### ▶ 毎回日本で実施する国際会議はあってよい

#### ▶ いつも旅費が潤沢とは限らない

- ▶ 発表者でない学生も気軽に連れていける機会となる（国際会議を理解することには寄与する）

#### ▶ 学生を含め、ステップアップの第一段階としてはよいのではないか

- ▶ いきなりAwayの国際会議デビューはしんどいかもしれない

### ▶ CANDARとのすみわけ

#### ▶ 運営やPCでは「人的資源」に重なりが生じる

- ▶ 会議のカテゴリが違ったとはいえ、SACSI/ACSIと共存できていたので、ある種の競争関係が両者の発展につながるかもしれない？

### ▶ 最初は寒い会議になるだろう

# 提案 1 : (完全) 国際会議の実施

- ▶ 日本国内で行う国際会議
- ▶ 会議録の発行体については要検討
  - ▶ SAC SIS/AC SIの経緯を活用して、IPSJのシンポジウムとして開催し、ACSと連携というのが当面最も実装しやすい案
    - ▶ ACSの英語論文は採択された場合、JIPの論文となる
- ▶ まずは小規模な会議からスタート
  - ▶ 2日間開催、トラック制にしないなど
- ▶ (Cons) 集まる論文や会議のステータスは"それなり"のレベルに留まるであろう

## 提案 2 : modified ACSIの実施

- 個人的には気に入っている部分もある
  - (Pros) 国内のハイレベルな投稿が期待できる (ACSI2015ではその後のトップカンファレンスに繋がった投稿もあった)
- (Cons) とにかく支持者が少ないと感じる
  - 世の中にあまりないスタイルの会議で趣旨が伝わりにくい
  - 論文を出してみれば「良さ」は分かるが、第三者目線では「ACSI」に出すことを前提に研究を計画するのは考えづらい
- 引き続き実施するのであれば、多少のModificationは必要
  - 華々しいSACSYSの時代は忘れる
  - 2日間開催 + 基調講演 + チュートリアルぐらいで構成してはどうか
    - チュートリアルの人気は高い
  - トラック制はやめる

## 提案 3 : 合同研究会の実施

- ▶ SAC SIS/ACSIの残額予算を有効に使って、招待講演（海外含む）とチュートリアルを実施
- ▶ 招待講演とチュートリアルについては、各研究会参加者が自由に聞けることとする
- ▶ 研究会 + 講演会 + チュートリアルを実施
- ▶ 時期については要検討
  - ▶ 冬版のSWoPPとして3月の第一週等、各学会の全国大会の前に実施するのが一案